

研究科の授業科目、単位数及び履修方法

I. 経済・ビジネス研究科

1 授業科目及び単位数

経済学専攻 博士前期課程

区 分	授 業 科 目	単位
共全 通研 科 目	英語プレゼンテーション特論	2
	英語ディスカッション特論(Critical Topics)	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区 分	授 業 科 目	単位
基 礎 科 目	*経済理論特講	2
	*経済・経営思想特講	2
	*経済・経営史特講	2
	*経済政策特講	2
	*国際経済特講	2
	*経済・経営統計特講	2
	*ファイナンス特講	2
	*地域学特講	2
	*地域づくり特講	2
	観光学特講	2
	地域観光特講	2
	会計学特講	2
	マーケティング特講	2
	経営学特講	2
	経営戦略特講	2
	情報処理特講	2
	流通システム特講	2
	租税法特講	2
	ソーシャル・イノベーション特講	2
	インターンシップ	2
	科 留 学 生	
	日本語経済特講	2
	日本語経営特講	2
専 門 科 目	経済理論研究	2
	政治経済学研究	2
	経済・社会思想研究	2
	日本経済史研究	2
	西洋経済史研究	2
	統計・計量研究	2
	農業経済学研究	2
	金融論研究	2
	財政学研究	2
	経済・社会政策研究	2
	国際・経済発展論研究	2
	環境政策研究	2
	租税法研究	2
	研 究 科 目	

区 分		授 業 科 目	単位
専 門 科 目	経 済 分 野	セ ミ ナ ー 科 目	経済理論セミナー 2
		政治経済学セミナー 2	
		経済・社会思想セミナー 2	
		日本経済史セミナー 2	
		西洋経済史セミナー 2	
		統計・計量セミナー 2	
		農業経済学セミナー 2	
		金融論セミナー 2	
		財政学セミナー 2	
		経済・社会政策セミナー 2	
		国際・経済発展論セミナー 2	
		環境政策セミナー 2	
		租税法セミナー 2	
		科 課 題 研 究 目 究	経済課題研究 1 2
	経済課題研究 2 2		
	演 習 科 目	経済学演習 1 2	
	経済学演習 2 2		
	地 域 づ く り 分 野	研 究 科 目	地域政策研究 2
		地域マネジメント研究 2	
		地域産業研究 2	
		地域社会研究 2	
		地域法制研究 2	
		セ ミ ナ ー 科 目	地域政策セミナー 2
		地域マネジメントセミナー 2	
		地域産業セミナー 2	
		地域社会セミナー 2	
地域法制セミナー 2			
科 課 題 研 究 目 究		地域づくり課題研究 1 2	
地域づくり課題研究 2 2			
演 習 科 目	地域づくり演習 1 2		
地域づくり演習 2 2			

現代ビジネス専攻 博士前期課程

区 分	授 業 科 目	単位
共全 通研 科 目	英語プレゼンテーション特論	2
	英語ディスカッション特論 (Critical Topics)	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区 分		授 業 科 目	単位
基礎科目	基礎科目	*経済・経営統計特講	2
		*ファイナンス特講	2
		*観光学特講	2
		*地域観光特講	2
		*会計学特講	2
		*マーケティング特講	2
		*経営学特講	2
		*経営戦略特講	2
		*情報処理特講	2
		*流通システム特講	2
		経済理論特講	2
		経済・経営思想特講	2
		経済・経営史特講	2
		経済政策特講	2
		国際経済特講	2
		租税法特講	2
		地域学特講	2
		地域づくり特講	2
		ソーシャル・イノベーション特講	2
		インターンシップ	2
	科目留學生	日本語経済特講	2
		日本語経営特講	2
専門科目	ビジネス・会計・観光分野	マーケティング研究	2
		広告戦略研究	2
		流通システム研究	2
		リスクマネジメント研究	2
		観光学研究	2
		アジア観光研究	2
		観光産業研究	2
		財務会計研究	2
		原価管理研究	2
		税務会計研究	2
		会計情報システム研究	2
		会計学研究	2
		ホスピタリティ・ビジネス研究	2
		課題研究 演習	マーケティングセミナー
	広告戦略セミナー		2
	流通システムセミナー		2
	リスクマネジメントセミナー		2
	観光学セミナー		2
	アジア観光セミナー		2
	観光産業セミナー		2
	財務会計セミナー		2
	原価管理セミナー		2
	税務会計セミナー		2
	会計情報システムセミナー		2
	会計学セミナー		2
		ホスピタリティ・ビジネスセミナー	2
	現代ビジネス課題研究 1	2	
	現代ビジネス課題研究 2	2	
	現代ビジネス演習 1	2	
	現代ビジネス演習 2	2	

区 分		授 業 科 目	単位	
専 門 科 目	マ ネ ジ メ ン ト 分 野	研 究 科 目	経営管理研究	2
			企業財務研究	2
			人的資源管理研究	2
			国際経営研究	2
			経営情報研究	2
			国際・地域経営研究	2
			経営学研究	2
			経営戦略研究	2
			ビジネス・イノベーション研究	2
			プロスポーツビジネス研究	2
	セ ミ ナ ー 科 目	経営管理セミナー	2	
		企業財務セミナー	2	
		人的資源管理セミナー	2	
		国際経営セミナー	2	
		経営情報セミナー	2	
		国際・地域経営セミナー	2	
		経営学セミナー	2	
		経営戦略セミナー	2	
		ビジネス・イノベーションセミナー	2	
		プロスポーツビジネスセミナー	2	
	科 課 目 題 研 究	マネジメント課題研究 1	2	
		マネジメント課題研究 2	2	
	科 演 目 習	マネジメント演習 1	2	
		マネジメント演習 2	2	

経済・ビジネス専攻 博士後期課程

区 分			授 業 科 目	単 位
	基 幹 科 目		*経済・ビジネス特論	2
			経済学特論	2
			商学特論	2
			経営学特論	2
経 済 学 領 域	経 済 分 野	特別研究科目	経済学特別研究	4
		論文演習科目	経済学論文演習 1	4
	地 域 づ く り 分 野	論文演習科目	経済学論文演習 2	4
			地域づくり特別研究	4
		論文演習科目	地域づくり論文演習 1	4
		論文演習科目	地域づくり論文演習 2	4
現 代 ビ ジ ネ ス 領 域	ビ ジ ネ ス ・ 会 計 ・ 観 光 分 野	特別研究科目	現代ビジネス特別研究	4
		論文演習科目	現代ビジネス論文演習 1	4
	マ ネ ジ メ ン ト 分 野	論文演習科目	現代ビジネス論文演習 2	4
			マネジメント特別研究	4
		論文演習科目	マネジメント論文演習 1	4
		論文演習科目	マネジメント論文演習 2	4

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、「専修コース」または「研究者養成コース」のいずれかを選択するものとする。
- ② 「専修コース」は課題研究の担当教員、「研究者養成コース」は演習の担当教員を主研究指導教員とし、授業科目の選択および課題研究報告書または学位論文の作成その他について指導を受けるものとする。
- ③ 「研究者養成コース」においては、原則として同一専攻内の演習担当教員1名を副研究指導教員とする。
- ④ 学生は、2年以上在学し、30単位以上修得するものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ⑤ 修了に必要な30単位以上の修得は、以下のとおりとする。

a. 経済学専攻

コ ー ス	基礎科目		研究科目	セミナー科目	課題研究 科 目	演習科目	合 計
	基礎科目	留学生科目					
専 修 コ ー ス	10～16単位以上	(2単位)	6単位以上	4単位以上	4単位		30単位以上
研究者養成コース	10～16単位以上	(2単位)	8単位以上	6単位以上		6単位	30単位以上

- ※1 基礎科目は、指定する科目（＊印）を6単位以上修得しなければならない。
- ※2 外国人留学生は、留学生科目2単位以上を修得するものとする。なお、留学生科目2単位を基礎科目に読み替えることができる。
- ※3 専修コースの学生は、研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び課題研究4単位を修得するものとする。
- ※4 研究者養成コースの学生は、主研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び演習4単位、さらに副研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位及び演習の2単位を修得するものとする。

b. 現代ビジネス専攻

コ ー ス	基礎科目		研究科目	セミナー科目	課題研究 科 目	演習科目	合 計
	基礎科目	留学生科目					
専 修 コ ー ス	10～16単位以上	(2単位)	6単位以上	4単位以上	4単位		30単位以上
研究者養成コース	10～16単位以上	(2単位)	8単位以上	6単位以上		6単位	30単位以上

- ※1 基礎科目は、指定する科目（＊印）を6単位以上修得しなければならない。
- ※2 外国人留学生は、留学生科目2単位以上を修得するものとする。なお、留学生科目2単位を基礎科目に読み替えることができる。
- ※3 専修コースの学生は、研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び課題研究4単位を修得するものとする。
- ※4 研究者養成コースの学生は、主研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び演習4単位、さらに副研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位及び演習の2単位を修得するものとする。

- ⑥ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な基礎科目又は研究科目の修得単位に加えることができる。
- ⑦ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目及び他研究科、他専攻並びに基礎となる学部の授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な基礎科目又は研究科目の単位として認定することができる単位は、前⑥の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑧ 学生は、所定の期日までに、修士論文または課題研究報告書を大学院事務室に提出するものとする。
- ⑨ その他授業科目の履修及び研究指導に関し必要な事項は、別に定める。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、3年以上在学し、論文演習担当の研究指導教員に、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。

- ② 学生は、必修科目 2 単位及び研究指導教員の特別研究、論文演習 1・2 の12単位、合計14単位を修得するものとする。ただし、取得を目指す博士の学位と異なる修士の学位を有する者は、取得を目指す学位と同じ分野の基幹科目 2 単位を修得し、合計16単位を修得するものとする。
- ③ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目の履修を認めることができる。なお、修得した単位は修了に必要な単位として認定されない。
- ④ 特別研究、論文演習 1・2 の単位認定は、研究報告書の評価によって行う。なお、論文演習 2 の研究報告書は、原則として20,000字程度とし、履修年度の所定の期日までに提出するものとする。
- ⑤ 学生は、研究指導教員と相談の上、研究遂行に必要な知識の修得のため、4 単位の特別研究を担当する教員の許可を得て履修することができる。なお、修得した単位は修了単位として認定されない。
- ⑥ 博士の学位論文の審査、その他必要な事項は別に定める。
- ⑦ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、研究指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

II. 工学研究科

1 授業科目及び単位数

産業技術デザイン専攻 博士前期課程

区 分			授 業 科 目	単位
全 研 究 科 目 共 通 科 目	英語プレゼンテーション特論			2
	英語ディスカッション特論 (Critical Topics)			2
	基盤能力特論			2
	プロジェクト実践演習 A			2
	プロジェクト実践演習 B			2
	プロジェクト実践演習 C			4
	生徒指導・進路指導特論			2
	学校心理学特論			2
区 分			授 業 科 目	単位
専 門 科 目	修 目	機 械 シ ス テ ム 分 野	機械システム特別研究Ⅰ	2
			機械システム特別研究Ⅱ	6
		電 気 情 報 分 野	電気情報技術特別研究Ⅰ	2
			電気情報技術特別研究Ⅱ	6
		化 学 生 命 分 野	物質生命化学特別研究Ⅰ	2
			物質生命化学特別研究Ⅱ	6
			バイオロボティクス特別研究Ⅰ	2
			バイオロボティクス特別研究Ⅱ	6
		土 木 デ ザ イン 分 野	土木デザイン特別研究Ⅰ	2
			土木デザイン特別研究Ⅱ	6
		建 築 デ ザ イン 分 野	建築デザイン特別研究Ⅰ	2
			建築デザイン特別研究Ⅱ	6
	選 択 科 目	共 通	産業技術デザイン実務実習	2
		機 械 シ ス テ ム 分 野	機械システム特別演習Ⅰ	2
			機械システム特別演習Ⅱ	2
			材料力学特論Ⅰ	2
			材料力学特論Ⅱ	2
			応力解析学特論	2
			機械力学特論	2
			振動工学特論	2
			流体工学特論	2
			熱工学特論	2
			機械工作特論	2
			精密工作特論	2
機械設計特論			2	
エネルギー変換工学特論			2	
数値解析特論			2	
ロボティクス特論Ⅰ			2	
ロボティクス特論Ⅱ			2	
制御工学特論Ⅰ			2	
制御工学特論Ⅱ			2	
メカトロニクス特論	2			
最適化理論特論	4			
数値計算法特論	4			
微分幾何学特論	4			
応用数学特論	4			

区 分			授 業 科 目	単位
専 門 科 目	選 択 分 野	電 気 情 報 技 術 分 野	電気情報技術特別演習 I	2
			電気情報技術特別演習 II	2
			電気エネルギー工学特論	2
			電気エネルギー環境基礎特論	2
			電磁気学特論	2
			回路とシステム特論	2
			電気電子計測特論	2
			電子物性特論	2
			エネルギー材料工学特論	2
			超伝導工学特論	2
			制御システム特論	2
			波動情報工学特論	2
			デジタルシステム特論	2
			光通信工学特論	2
			通信システム工学特論 I	2
			通信システム工学特論 II	2
			ソフトウェア基礎特論	2
			パワーエレクトロニクス特論	2

区 分			授 業 科 目	単位
専 門 科 目	選 択 科 目	物 質 生 命 化 学 分 野	物質生命化学特別演習Ⅰ	2
			物質生命化学特別演習Ⅱ	2
			バイオロボティクス特別演習Ⅰ	2
			バイオロボティクス特別演習Ⅱ	2
			無機化学特論	2
			有機化学特論	2
			有機合成化学特論	2
			物理化学特論	2
			環境化学特論	2
			分析化学特論	2
			物質環境化学特論Ⅰ	2
			物質環境化学特論Ⅱ	2
			生物有機化学特論	2
			生物化学工学特論	2
			植物分子生物学特論	2
			微生物工学特論	2
			生物分離工学特論	2
			応用生物学特論	2
			分子細胞生物学特論	2
			食品栄養化学特論	2
		土 木 デ ザ イ ン 分 野	食品製造特論Ⅰ	2
			食品製造特論Ⅱ	2
			応用生命化学特論Ⅰ	2
			応用生命化学特論Ⅱ	2
			バイオメカニクス特論Ⅰ	2
			バイオメカニクス特論Ⅱ	2
			組織工学特論	2
			土木デザイン特別演習Ⅰ	2
			土木デザイン特別演習Ⅱ	2
			風景デザイン特論	2
			河川デザイン特論	2
			生態学特論	2
			応用生態学特論	2
			海岸防災工学特論	2
			沿岸環境保全特論	2
			応用水理学特論	2
			地下水工学特論	2
			建設工学特論	2
			維持管理工学特論	2
			構造工学特論	2
			耐震工学特論	2
			コンクリート構造工学特論	2
			建設材料特論	2
			地盤工学特論	2
			環境地盤工学特論	2
			都市防災学特論	2
			防災計画学特論	2

区 分			授 業 科 目	単位
専 門 科 目	選 択 科 目	建 築 デ ザ イ ン 分 野	建築デザイン特別演習Ⅰ	2
			建築デザイン特別演習Ⅱ	2
			施設計画特論	2
			住環境計画特論	2
			空間設計特論	2
			建築設計特論	2
			建築歴史特論Ⅰ	2
			建築歴史特論Ⅱ	2
			保存修景計画特論	2
			都市計画特論	2
			施設計画演習	2
			住環境計画演習	2
			空間設計演習	2
			建築設計演習	2
			都市計画演習	2
			建築環境工学特論	2
			建築設備特論	2
			建築設備設計演習	2
			建築材料特論	2
			構造力学特論Ⅰ	2
			構造力学特論Ⅱ	2
専 門 科 目	自由科目	建 築 デ ザ イ ン 分 野	建築振動特論	2
			合成構造特論	2
			鉄筋コンクリート構造特論	2
			建築構造設計演習	2
専 門 科 目	自由科目	建 築 デ ザ イ ン 分 野	地震工学特論	2
			地震工学演習	2
			建築士実務実習Ⅰ	4
			建築士実務実習Ⅱ	4
			建築士実務実習Ⅲ	4

産業技術デザイン専攻 博士後期課程

区 分			授 業 科 目	単位
産 業 技 術 デ ザ イ ン 分 野	特 別 演 習	機 械 シ ス テ ム	機械システム特別演習Ⅰ	2
			機械システム特別演習Ⅱ	2
		電 気 情 報 技 術	電気情報技術特別演習Ⅰ	2
			電気情報技術特別演習Ⅱ	2
		化 物 質 生 命 学	物質生命化学特別演習Ⅰ	2
			物質生命化学特別演習Ⅱ	2
			バイオロボティクス特別演習Ⅰ	2
			バイオロボティクス特別演習Ⅱ	2

区 分			授 業 科 目	単位
産 業 技 術 デ ザ イ ン 分 野	特 別 演 習	土 木 デ ザ イ ン	土木デザイン特別演習Ⅰ	2
			土木デザイン特別演習Ⅱ	2
	研 究 別	建 築 デ ザ イ ン	建築デザイン特別演習Ⅰ	2
			建築デザイン特別演習Ⅱ	2
	研 究 別	共 通	産業技術デザイン特別研究	6

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、特別研究の担当教員（以下「指導教員」という。）から、授業科目の選択及び学位論文等の作成その他全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、所定の授業科目について必修科目8単位、選択科目22単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。ただし、特に優れた業績を上げたと認められた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 学生は、指導教員へ所定の期日までに、学位論文または課題研究報告書を提出するものとする。
- ④ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な選択科目の修得単位に加えることができる。
- ⑤ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目及び他研究科の選択科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な選択科目として認定することができる単位は、前④の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑥ 他研究科の授業科目を履修しようとする学生は、あらかじめその授業科目担当教員の許可を受けなければならない。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、特別研究担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）から、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、指導教員が担当する特別研究、特別演習Ⅰ・Ⅱを履修し、合計10単位を修得するものとする。ただし、指導教員が必要と認めた場合は、他の特別演習を、当該の特別演習を担当する教員の許可を得て履修することができる。
- ③ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目の履修を認めることができる。なお、修得した単位は修了に必要な単位として認定されない。
- ④ 指導教員が教育上有益と認めるときは、研究科長会議の意見を聴取した上で他の大学院、専門職大学院又は研究所等において特別研究に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ⑤ 学位論文には、指導教員が必要と認めた場合は作品を加えることができる。
- ⑥ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

Ⅲ. 芸術研究科

1 授業科目及び単位数

造形表現専攻 博士前期課程

区 分	授 業 科 目	単位
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2
	英語ディスカッション特論 (Critical Topics)	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

必修科目		
区分	授 業 科 目	単位
総合研究	芸術表現総合研究Ⅰ	4
	芸術表現総合研究Ⅱ	4
	デザイン総合研究Ⅰ	4
	デザイン総合研究Ⅱ	4
	写真・映像総合研究Ⅰ	4
	写真・映像総合研究Ⅱ	4
演習	芸術表現応用演習	4
	デザイン応用演習	4
	写真・映像応用演習	4

選択科目		
区分	授 業 科 目	単位
芸術表現理論	美術史特論	2
	現代美術特論	2
	工芸特論	2
	デザイン特論	2
	写真特論	2
	写真作品特論	2
	映像特論	2
	造形心理学特論	2
演習	造形表現超域演習	4
	芸術超域演習	2
特定演習	造形表現特定演習 (絵画 A)	2
	造形表現特定演習 (絵画 B)	2
	造形表現特定演習 (現代美術 A)	2
	造形表現特定演習 (現代美術 B)	2
	造形表現特定演習 (メディア芸術 A)	2
	造形表現特定演習 (メディア芸術 B)	2
	造形表現特定演習 (グラフィックデザイン)	2
	造形表現特定演習 (イラスト表現)	2
	造形表現特定演習 (ビジュアルアート)	2
	造形表現特定演習 (工芸)	2
	造形表現特定演習 (プロダクトデザイン)	2
	造形表現特定演習 (空間演出デザイン)	2
	造形表現特定演習 (企画デザイン)	2
	造形表現特定演習 (情報デザイン)	2

選択科目			
区分		授 業 科 目	単位
特定演習	写真・映像領域	造形表現特定演習 (写真制作 A)	2
		造形表現特定演習 (写真制作 B)	2
		造形表現特定演習 (映像制作 A)	2
		造形表現特定演習 (映像制作 B)	2
		造形表現特定演習 (写真表現 A)	2
		造形表現特定演習 (写真表現 B)	2
		造形表現特定演習 (映像表現 A)	2
		造形表現特定演習 (映像表現 B)	2
		造形表現特定演習 (映像表現 B)	2

選択科目			
区分		授 業 科 目	単位
特殊演習	芸術表現領域	造形表現特殊演習 (芸術表現 A)	2
		造形表現特殊演習 (芸術表現 B)	2
		造形表現特殊演習 (芸術表現 C)	2
	デザイン領域	造形表現特殊演習 (デザイン A)	2
		造形表現特殊演習 (デザイン B)	2
		造形表現特殊演習 (柿右衛門様式)	2
	写真・映像領域	造形表現特殊演習 (写真の現場)	2
		造形表現特殊演習 (写真の精神)	2

造形表現専攻 博士後期課程

区分	授 業 科 目	単位
共通	芸術表現特論研究	2
	デザイン特論研究	2
	写真・映像特論研究	2
領域 芸術表現	芸術表現特別研究Ⅰ	4
	芸術表現特別研究Ⅱ	4
	芸術表現特別研究Ⅲ	4
領域 デザイン	デザイン特別研究Ⅰ	4
	デザイン特別研究Ⅱ	4
	デザイン特別研究Ⅲ	4
映像領域・写真	写真・映像特別研究Ⅰ	4
	写真・映像特別研究Ⅱ	4
	写真・映像特別研究Ⅲ	4

区分	授 業 科 目	単位
科目選択	論文指導A	2
	論文指導B	2

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、総合研究の担当教員（以下「指導教員」という。）から、授業科目の選択及び学位論文等の作成その他全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、必修科目として、指導教員が担当する総合研究科目8単位及び応用演習科目4単位、選択科目として、総合研究と同一領域の特定演習科目4単位を含め計18単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ修士の学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究の成果の審査及び最終試験に合格するものとする。ただし、特に優れた業績を上げたと認められた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な選択科目の修得単位に加えることができる。
- ④ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目及び他研究科の選択科目を履修することができる。なお、修了に必要な選択科目の単位として認定することができる単位は、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑤ 他研究科の授業科目を履修しようとする学生は、あらかじめその授業科目担当教員及び指導教員の承認を必要とする。
- ⑥ 学生は、修士の学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究成果の作成に関する計画を、修了しようとする年度の前年度の後学期始めまでに指導教員に提出しなければならない。
- ⑦ 学生は、所定の期日までに、学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究の成果について、指導教員に提出するものとする。なお、その基準については別に定める。
- ⑧ 修士の学位論文及び特定の課題（作品等）についての研究の成果の予備審査は、修了年次の前学期末に行うものとする。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、3年以上在学し、必修科目として、研究指導教員が担当する特別研究科目12単位を修得するものとする。ただし、研究指導教員が必要と認めた場合は、共通科目を6単位まで履修することができる。
- ② 学生は、3年間にわたって研究指導教員から必要な研究指導を受けなければならない。また、学位論文（研究指導教員の指導により作品を加えることができる。）の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ③ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目の履修を認めることができる。なお、修得した単位は修了に必要な単位として認定されない。
- ④ 博士の学位論文の予備審査は、3年在学の者は9月、4年以上在学の者は2月又は9月に行うものとする。
- ⑤ 博士の学位論文は、「研究指導」を担当する研究指導教員に提出するものとする。
- ⑥ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、研究指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

IV. 国際文化研究科

1 授業科目及び単位数

国際文化専攻 博士前期課程

区分	授 業 科 目	単位
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2
	英語ディスカッション特論 (Critical Topics)	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区分	授 業 科 目	単位
共通科目	英語文獻リーディングⅠ	2
	英語文獻リーディングⅡ	2
	英語プレゼンテーションⅠ	2
	英語プレゼンテーションⅡ	2

区分	授 業 科 目	単位
国際文化研究分野	国際文化研究演習Ⅰ	4
	国際文化研究演習Ⅱ	4
	日本・アジア歴史研究 (日本前近代史)	4
	日本・アジア歴史研究 (アジア民族問題・歴史)	4
	日本・アジア歴史研究 (東アジア交流史)	4
	日本・アジア文学研究 (日本中古文)	4
	日本・アジア文学研究 (日本近世文学)	4
	日本・アジア文学研究 (中国語文学)	4
	日本・アジア文学研究 (朝鮮近代文学)	4
	日本・アジア言語研究 (中世日本語論)	4
	日本・アジア言語研究 (韓国語論)	4
	日本・アジア総合研究 (日本語教育史)	4
	日本・アジア総合研究 (教育文化交流史)	4
	日本・アジア総合研究 (東アジア文化論)	4
	日本・アジア総合研究 (民俗学)	4
	アジア言語文獻読解Ⅰ	2
	アジア言語文獻読解Ⅱ	2
	欧米文学研究 (英米文学)	4
	欧米文学研究 (アイルランド文学)	4
	欧米思想研究 (ドイツ思想)	4
	欧米思想研究 (フランス思想)	4
	欧米総合研究 (アメリカ歴史・政治研究)	4
	欧米歴史研究 (ヨーロッパ史)	4
	欧米言語研究 (生成文法理論・統語論研究)	4
	欧米言語研究 (教育学英語教授法)	4
	欧米言語文獻読解Ⅰ	2
	欧米言語文獻読解Ⅱ	2
	教育学研究 (教育経営論)	4
	教育学研究 (教育環境論)	4
	教育学研究 (教育哲学)	4
	教育学研究 (教育史)	4
	生涯学習特論	2
	教育実践特論	2
	学校医療特論	2
	教育臨床心理学特論	2
	学校発達心理学特論	2
	教育心理アセスメント特論	2
	教育心理アセスメント実習	2
	学校カウンセリング特論	2
	学校カウンセリング実習	2

区 分		授 業 科 目	単位	
臨床心理学研究分野	必修科目	臨床心理学研究演習Ⅰ	4	
		臨床心理学研究演習Ⅱ	4	
		臨床心理学特論	4	
		臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	2	
		臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2	
		臨床心理面接特論Ⅱ	2	
		臨床心理基礎実習	2	
		臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習ⅡA)	1	
		臨床心理実習Ⅱ	1	
	選択必修科目	A群	心理学研究法特論	2
			臨床心理学研究法特論	2
			心理統計法特論	2
		B群	教育心理学特論	2
			発達心理臨床学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2
		C群	社会心理学特論	2
			臨床心理関連行政特論	2
			犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2
		D群	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2
			障害児・者心理学特論	2
			高齢者臨床心理学特論	2
		E群	心理療法特論	2
			キャリアカウンセリング特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2
			学生相談特論	2
			力動的心理療法特論	2
			投映法特論	2
			認知行動療法特論	2
			異文化間カウンセリング特論	2
		選択科目	教育分野に関する理論と支援の展開	2
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2
心の健康教育に関する理論と実践	2			
心理実践実習Ⅰ	3			
心理実践実習ⅡB	6			

国際文化専攻 博士後期課程

区分	授 業 科 目	単位
研究分野文化	国際文化特別研究Ⅰ	4
	国際文化特別研究Ⅱ	4
	国際文化特別研究Ⅲ	4
	国際文化特別演習	4
研究分野臨床心理学	臨床心理学特別研究Ⅰ	4
	臨床心理学特別研究Ⅱ	4
	臨床心理学特別研究Ⅲ	4
	臨床心理学特別演習	4

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、「研究演習」を担当する教員を研究指導教員とし、授業科目の選択、論文の作成及びその他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、以下の方法で所定の単位を修得するものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。

a. 国際文化研究分野

研究指導教員（以下「指導教員」という。）の演習科目8単位、講義科目4単位及び同一研究分野の講義科目12単位を含む講義科目16単位以上及び共通科目から2単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。なお、臨床心理学研究分野の必修科目及び選択必修科目E群の授業科目は、履修できないものとする。

b. 臨床心理学研究分野

指導教員の演習科目8単位を含む必修科目24単位、選択必修科目（A群～E群）の各群からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、さらに全研究分野の講義科目から4単位以上、合計38単位以上を修得するものとする。

ただし、公認心理師の受験資格を得るためには、次表に掲げる授業科目の単位を修得するものとする。

授 業 科 目	単位
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2
発達心理臨床学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
キャリアカウンセリング特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2
教育分野に関する理論と支援の展開	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2
心の健康教育に関する理論と実践	2
心理実践実習Ⅰ	3
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習ⅡA）	1
心理実践実習ⅡB	6

- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な単位に加えることができる。
- ④ 指導教員が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院、他研究科及び基礎となる学部の授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な単位として認定することができる単位は、4単位以内とし、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、3年以上在学し、指導教員の担当する授業科目12単位を修得するものとする。
- ② 学生は、指導教員と相談の上、研究遂行に必要な知識の習得のため、4単位の特別演習を履修することができる。
- ③ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目の履修を認めることができる。なお、修得した単位は修了に必要な単位として認定されない。
- ④ 博士の学位論文は、「特別研究」を担当する指導教員に提出するものとする。
- ⑤ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

V. 情報科学研究科

1 授業科目及び単位数

情報科学専攻 博士前期課程

区 分	授 業 科 目	単 位
全 共 通 研 究 科 目	英語プレゼンテーション特論	2
	英語ディスカッション特論 (Critical Topics)	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

情報科学専攻 博士後期課程

授 業 科 目	単 位
情報科学特別セミナー	2
情報科学特別研究 I	4
情報科学特別研究 II	6

区 分		授 業 科 目	単位
専 門 科 目	人 工 知 能 サ イ エ ン ス ・ ド メ イ ン ・ テ ク ニ ク	並列処理技術特論	2
		生命情報学特論	2
		アルゴリズムと計算量特論	2
		ソフトウェア工学特論	2
		データ分析と情報管理特論	2
		計画システム特論	2
		グループウェア特論	2
		ヒューマンコンピュータインタラクション特論	2
		VRと3DCGプログラミング特論	2
		コンピュータビジョンと機械学習特論	2
	セ キ ュ リ テ ィ ・ ド メ イ ン ・ テ ク ニ ク	ハードウェア設計特論	2
		ネットワークコンピューティング特論	2
		VLSI 設計特論	2
		自律分散協調システム特論	2
		情報ネットワーク特論	2
		通信システム特論	2
		情報セキュリティ特論	2
		人安全管理特論	2
		人情報処理システム特論	2
		共 通	産業実務実習
	情報数理特論		2
演 習 科 目	セ ミ ナ ー ・ ド メ イ ン ・ テ ク ニ ク	情報科学セミナー	2
		情報科学特別演習Ⅰ	4
		情報科学特別演習Ⅱ	4

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、一つの教育研究分野に所属し、特別演習担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）からセミナー、特別演習、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、所定の授業科目について、セミナー・演習科目10単位、専門科目20単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。ただし、特に優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な専門科目の修得単位に加えることができる。
- ④ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院及び学部授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な専門科目として認定することができる単位は、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑤ 指導教員が教育上有益と認めるときは、研究科長会議の意見を聴取した上で他の大学院、専門職大学院又は研究所等において特別演習に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ⑥ 学位論文は、所属する教育研究分野の特別演習について指導教員に提出するものとする。

⑦ 英文の総合報告を学位論文に代えることができる。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、特別研究担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）から特別研究、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、3年以上在学し、特別セミナー及び指導教員が担当する特別研究Ⅰ、Ⅱを履修して、合計12単位を修得するものとする。ただし、特に優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間については、1年（ただし、博士前期課程を2年未満で修了した者は2年）以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院、専門職大学院の授業科目の履修を認めることができる。なお、修得した単位は修了に必要な単位として認定されない。
- ④ 指導教員が教育上有益と認めるときは、研究科長会議の意見を聴取した上で学生が他の大学院、専門職大学院又は研究所等において特別研究に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ⑤ 学位論文は、特別研究を担当する指導教員に提出するものとする。
- ⑥ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。